

冲山 幸子 (東京) その一集

令和5年7月25日没

足おもきスタートなりしが五千歩余越ゆるころにはかるがる歩む
肺病みのかすれ声かな大さ声出して授業をせし頃ありしに

大塚たかし (静岡) その一集

令和5年10月2日没

病む妻を残して先に死なれないさて私の生どうすればよい
夏花火音のみ聞きて家に籠る重き響きは身を揺らす

大木かづ子 (神奈川) その一集

令和6年1月18日没

イマジンを歌ひしジョンを失へる十二月八日開戦は褪せて
ひとりでは入れぬ谷戸の藪のみち侵略のごと芒押し寄す

新居みちよ (香川) その一集

令和6年1月19日没

庭の木をめでつつ夫と茶を飲みきたつた二ヶ月前までのこと
写メールのかへでの紅葉を里心おそれ施設の夫には見せず

喜多 功 (三重) 月集シリウス

令和6年1月22日没

米ぬかを肥料にたんと使ふから己のキャベツは日本一だ
ヴァン・ゴッホ否いなわれだひまはりの広き畑をさまよふ男

後藤 美子 (北海道) 月集スバル

令和6年1月29日没

大木に鈴生りと聞くアボカドの花をまだ見ず黄なるその花
薄切りを山葵醤油につけて食むとほき国より来たるアボカド

西園 寿 (鹿児島) その一集

令和6年2月10日没

リハビリを続けてゐるに左足そろそろ歩ける、進歩してをり
リハビリの往復に見る窓越しの桜満開春は過ぎゆく

佐々木珠実 (埼玉) その一集

令和6年3月6日没

とりあえずお節があつてよかつたと夫婦二人で寝込む正月
片方の熱が下がれば片方が上がるやっぱりわれらは夫婦

高田 玲子 (富山) その一集

令和6年3月28日没

銀行に付添ひが付く二組のそのひと組は吾と息子です
朝食を食べたる後を覚えなく居眠りをする八十六歳

三浦千代子 (広島) その一集

令和6年4月8日没

病みやすく明日の元気のあてもなき九十歳の命生きをり
この町は坂道ばかり公園の花水木の花手にとつてゐる

佐藤 典子 (東京) 月集シリウス

令和6年5月4日没

コンサートに楽しく聴きし「この道」の歌詞懐かしみ小声に唄ふ
老人介護に潑刺働く青年が九十になる頃日本は如何

末吉瑠璃子 (山口) あすなろ集

令和6年5月9日没

海中より魚籠を引き上げ見せくれぬ黒く艶めく魚が跳ねる
メタセコイヤの並木が好きか遠まはりして我が夫はいつも通れり

達知 和子（三重） その一集

令和6年6月10日没

半世紀過ぎし木の家冷えしるく八十一歳たちまちこゝる
ひねもすを電灯ともす部屋にゐて読み書き続けつ三月半ば

勝山 和美（富山） 月集シリウス

令和6年6月15日没

風のように季節が通りすぎてゆく日々の記録も書きさしのまま
カシミアの母の毛布のあたたかさ母につつまれ今宵もねむる

石橋千恵子（神奈川） 月集シリウス

令和6年6月22日没

はたち
二十歳にて逝きたる姉にわが母は花嫁衣裳を着せて送りき
わすれずによく来てくれた青葉梶わが家の裏の電線で鳴く



第三十六回小野市短歌フォーラム作品募集

投稿規程 自作未発表作品で一人1首に限る

投稿料 一〇〇〇円（小・中・高校生は無料）

投稿方法 ①投稿用紙に作品と必要事項を明記のうえ、郵便小

為替を同封し、投稿先に郵送する。

②LINEで投稿する場合は、小野市公式LINEから申し込みのうえ、投稿料を指定口座へお振込み下さい。

〒675-1138

投稿先

兵庫県小野市中島町531

小野市教育委員会内 短歌フォーラム係

TEL 〇七九四―六三―二四四五（直通）

FAX 〇七九四―六三―一八四二

募集締切 令和六年十一月八日（金）当日消印有効

選者 永田和宏 小島ゆかり

賞 小野市短歌フォーラムにおいて表彰

・一般の部…一席／五席／入選十五首／佳作三十首

・小・中・高校生の部…最優秀三首／優秀十五首／

佳作30首／学校賞

表彰式 日時 令和七年四月二十六日（土） 十二時三十分～

第三十六回上田三四二記念

小野市短歌フォーラム表彰式

第十七回小野市詩歌文学賞授賞式 同時開催

会場 小野市うるおい交流館エクラ

（小野市中島町七十二）